

2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

-
- | | | |
|---|--------------------|----|
| 1 | 音楽CDを聴く | 64 |
| 2 | 音楽ファイルを聴く | 68 |
| 3 | オリジナル音楽CDを作る | 75 |
| 4 | DVD-Videoを観る | 80 |
| 5 | デジタルカメラの写真を編集／整理する | 86 |
| 6 | オリジナルDVDを作る | 89 |

1 音楽 CD を聴く

本製品では音楽 CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 音楽 CD を再生する

音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- ビートジャム BeatJam
- ウィンドウズ メディア プレーヤ Windows Media Player

1 起動方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

参照▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、「Windows Media Player」の場合は [オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択してください。選択したアプリケーションが起動します。

[BeatJam] を起動したいのに [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン (✕) をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

参照▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

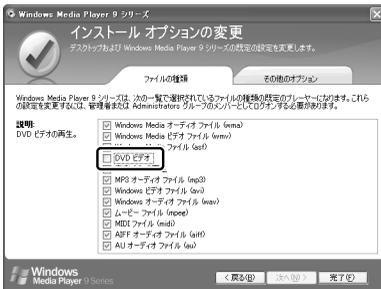
BeatJam を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。

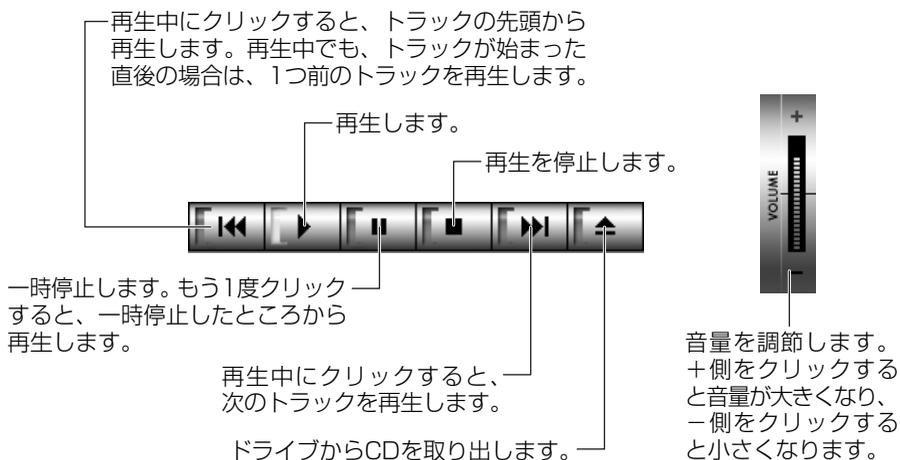


DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合

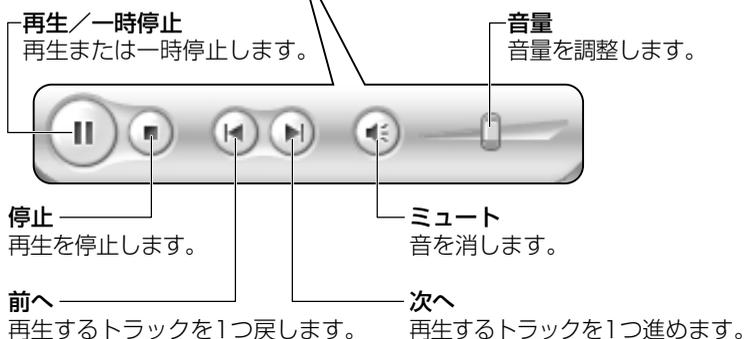


【ヘルプの起動方法】

- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [BeatJamの使い方] をクリックする

参照 → 「BeatJam」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Player を起動した場合



【ヘルプの起動方法】

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照▶ 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav) •WMA形式 (.wma) •MP3形式 (.mp3) など

メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。

1 BeatJamでファイルを再生する

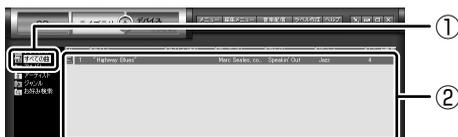
1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 2 画面左にある一覧で [すべての曲] をクリックし①、[マイコンピュータ] などで再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

参照 ▶ プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

3 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の「すべての曲」をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

4 [再生] ボタン (▶) をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

● 音楽CDのトラックをコピーする場合

① [CD] ボタン (CD) をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

② 音楽CDをドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン (■) をクリックして停止してください。

[Audio CD] 画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

③ 一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック (☑) する

一覧の左下にある ☑ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。☐ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

④ [曲のビットレート] (132k 105k 66k) で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が多いほど、良い音質で録音されます。

⑤ [録音] ボタン (録音▶) をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

⑥ 録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする

曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 1、2 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

- 2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする

- 3 [編集メニュー] ボタン () をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする
[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



- 4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter) キーを押す
プレイリスト名が確定されます。

- 5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する

- 6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。(Shift) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

- 7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする
プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン () をクリックする
一覧に表示されている順に再生されます。

2 Windows Media Player でファイルを再生する

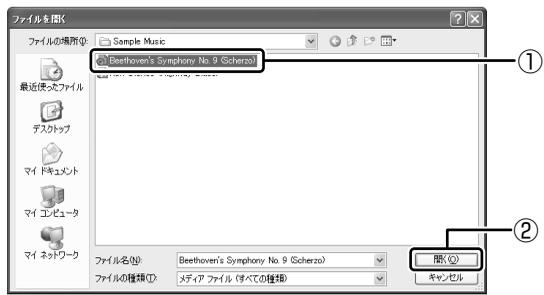
まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

▶ 参照 Windows Media Player の操作について「本章 1-①-2 操作画面」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

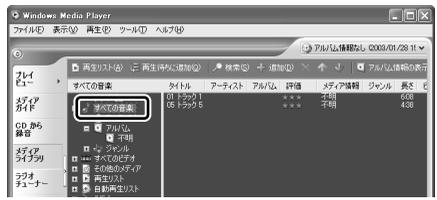
- 音楽CDのトラックをコピーする場合
 - ① 音楽CDをセットする
 - ② [CDから録音] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽の録音] ボタンをクリックする
 - ⑤ [録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑥ 「CDから録音される音楽が、…」の項目を読み、チェックする
 - ⑦ [次へ] ボタンをクリックする
 - ⑧ [録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑨ [完了] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URLを追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面でURLまたはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

3 [すべての音楽] をクリックする

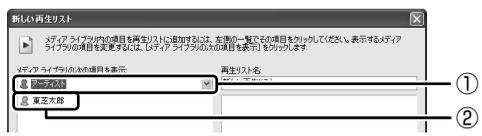


メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

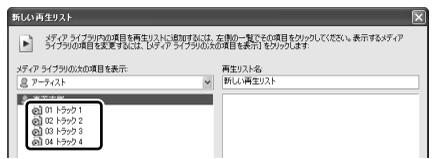


5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

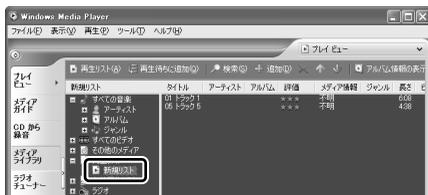


ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグンドロップシーディープラスディーブイディー
「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。
データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは2章2バックアップをとる』を参照してください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。
インストールしてから使用してください。

参照 「Drag'n Drop CD + DVD」のインストールについて
「本節 ①-1 インストール方法」

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-Rライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 CD-RW、CD-Rについて 「1章 8-② 使用できるCD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 省電力機能について 「5章 バッテリー駆動」

-
- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
 - SD メモリカード、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
 - 本製品に付属している「Drag'n Drop CD + DVD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
 - 「Drag'n Drop CD + DVD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 添付のアプリケーション CD-ROM をセットする

参照▶ CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD + DVD」をインストールする

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[開く] ボタンをクリックしてください。

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

インストールされた「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

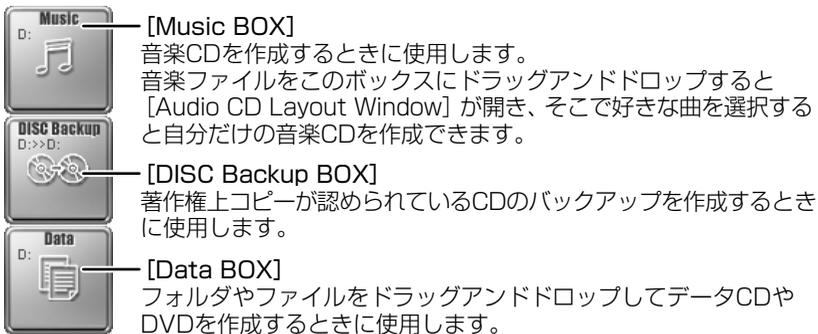
「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



参照▶ 詳細について『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報]には曲情報が表示されています。

4 [ブランク CD サイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順5、6を繰り返します。

7 音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする

8 **【書き込み】ボタン** () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 **【スタート】** → **【すべてのプログラム】** → **【Drag'n Drop CD + DVD】** → **【Drag'n Drop CD + DVD Help】** をクリックする

「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。

 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときには、次の手順で行います。

1 **通知領域の【Drag'n Drop CD + DVD】アイコン** () を右クリックし、**表示されたメニューから【終了】** をクリックする
デスクトップ上に表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、インタービデオ ウィンディーファイター「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要です。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 4-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

1 起動方法

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD/DVD』

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。

「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

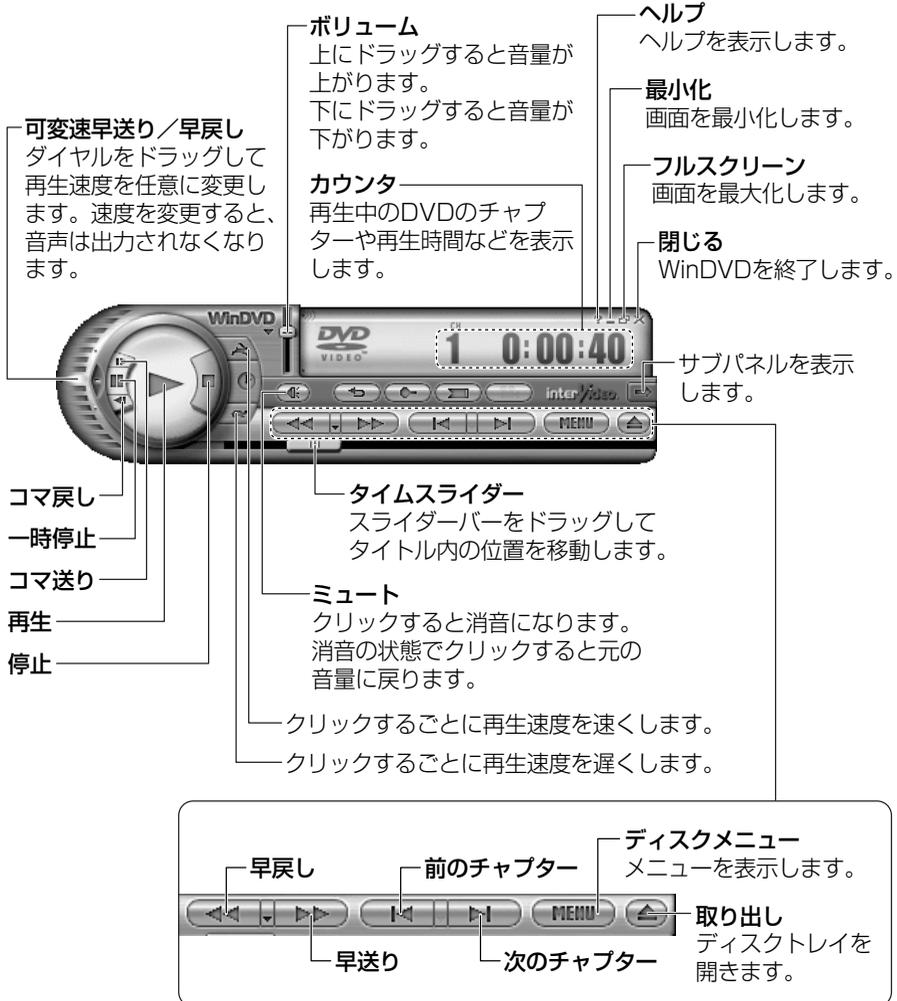


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するために、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

 参照 → テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 4 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVD コントロールパネルの [ヘルプ] ボタン () をクリックする

 参照 → 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「ウォーカー ユーロード アイフォトデジカメ Walker (Ulead iPhoto エキスプレス Express)」が用意されています。

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

モードを選択します。管理、編集、テンプレートから選択できます。

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。作業領域で行う作業を選択します。

オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

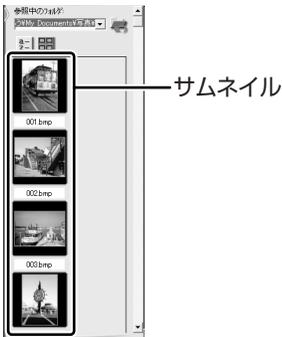
サムネイルストリップ
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

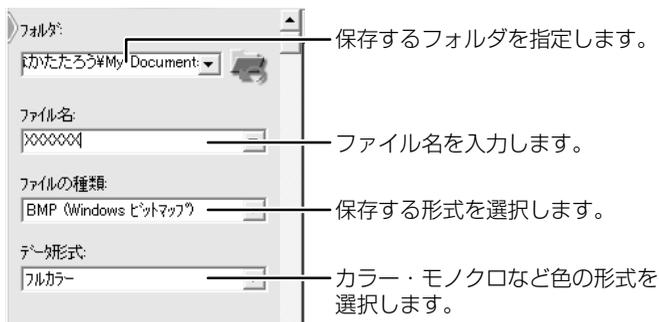
- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

▶ 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 オリジナル DVD を作る

モーションディープイ スタジオ
「MotionDV STUDIO」を使ってデジタルビデオカメラで撮影した映像を本製品に取り込み、編集できます。DVD マルチドライブモデルでは、編集した映像データを ディープディープファンスタジオ ディープディープムービーアルバム「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」を使って DVD に書き込むことができます。

アプリケーションをインストールする

DVD マルチドライブモデルでは、「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

【 DVDfunSTUDIO のインストール方法 】

1 「DVDfunSTUDIO」と記載されている CD をセットする

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVDfunSTUDIO」をインストールする

【 DVD-MovieAlbum のインストール方法 】

1 「DVD-MovieAlbum」と記載されている CD をセットする

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVD-MovieAlbum」をインストールする

1 映像データの取り込み／編集からDVDに書き込むまでの流れ

映像データをデジタルビデオカメラから取り込んで、DVDに書き込むまでの流れは、次のとおりです。

映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データを「MotionDV STUDIO」を使ってパソコンに取り込みます。

i.LINK (IEEE1394) ケーブルを用意してください。

参照 ▶ 「本節 2 映像データをパソコンに取り込む」



映像データを編集する

取り込んだ映像データを「MotionDV STUDIO」を使って編集します。

参照 ▶ 「本節 3 映像データを編集する」



DVD-RW、DVD-Rに書き込む

編集した映像データを「DVDfunSTUDIO」を使ってDVD-Video形式で書き込みます。

参照 ▶ 「本節 4-1
DVD-RW、DVD-Rに書き込む」

DVD-RAMに書き込む

編集した映像データを「DVD-MovieAlbum」を使ってDVD-VR形式で書き込みます。

参照 ▶ 「本節 4-2
DVD-RAMに書き込む」

2 映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データをパソコンに取り込みます。

1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照▶ i.LINK ケーブルの接続

[4章 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する]

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。初めて起動したときは、
[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

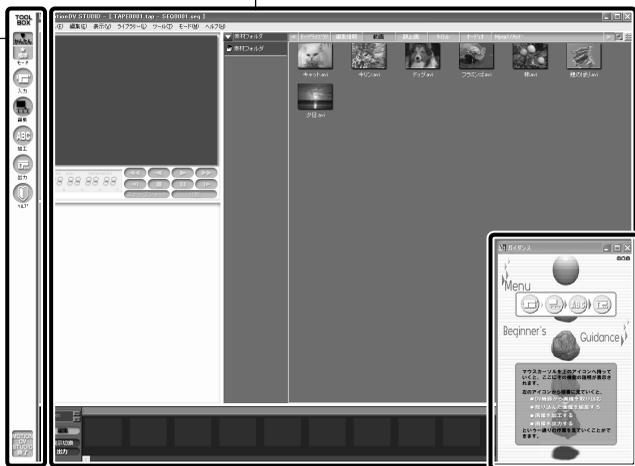
【[MotionDV STUDIO] 画面】

TOOL BOX

目的の操作・機能を選びます。

ワークエリア

映像データの加工や編集などの操作を行うエリアです。[TOOL BOX] で選んだ機能によって画面が切り替わります。

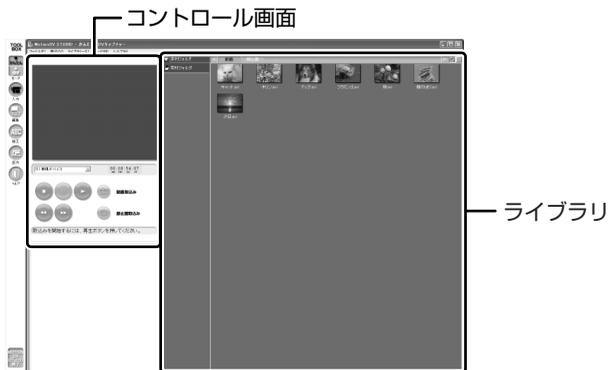


ビギナーズガイダンス

[TOOL BOX] で選んだ機能に関する操作説明が表示されます。

5 [TOOL BOX] の [入力] ボタン () をクリックする

[ワークエリア] が [コントロール画面] と [ライブラリ] に分かれます。



6 [再生] ボタン () をクリックする

接続したデジタルビデオカメラの映像が再生され、[コントロール画面] に映像を表示します。

- 7 取り込みたいシーンで [動画取込み] ボタン () をクリックする
取り込み中は次の画面が表示されます。



- 8 取り込みを終了したいシーンで [終了] ボタンをクリックする
取り込んだ映像 (本書では「ビデオクリップ」と呼びます) が保存され、
[ライブラリ] の [動画] タブにビデオクリップの最初のシーンがアイコン
表示されます。



取り込みたいシーンで手順7と8を繰り返します。取り込んだシーンごとにビデオクリップが作成されます。

取り込みが終了したら [停止] ボタン () をクリックして映像の再生を停止します。

3 映像データを編集する (MotionDV STUDIO)

「MotionDV STUDIO」を使って、デジタルビデオカメラから取り込んだ映像データにタイトルを付けたり、複数の映像データをつなぎ合わせるなど編集することができます。ここではタイトルをつけ、他の映像データとつなぎ合わせて1つの映像データにしてみましょう。

お願い 映像データの編集について

- 「InterVideo WinDVD」など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「MotionDV STUDIO」では行えません。
- 「DVD-MovieAlbum」では著作権保護されているコンテンツは再生できません。検出した時点で、再生を中止します。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

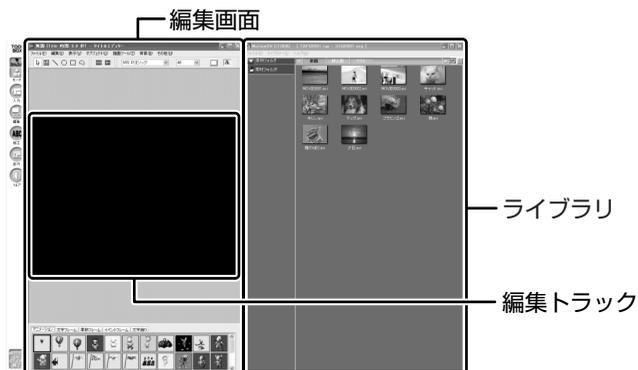
メモ

デジタルビデオカメラから映像データを取り込んだ後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

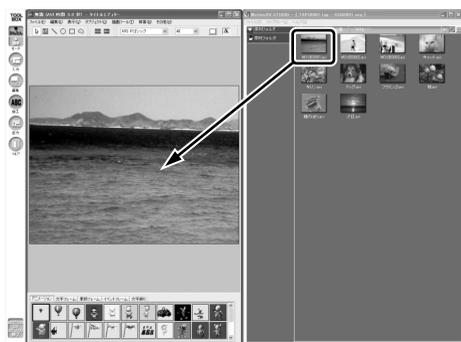
1 タイトルを入れる

取り込んだ映像データにタイトルなどの文字を追加する場合は、ビデオクリップを選択し、文字を入力して別のビデオクリップとして保存します。追加した文字は、そのビデオクリップの初めから終わりまで表示されます。

- 1 【TOOL BOX】の【加工】ボタン（ABC）をクリックする
【ワークエリア】が【編集画面】と【ライブラリ】に分かれます。



- 2 【ライブラリ】の【動画】タブから編集したいビデオクリップを【編集トラック】にドラッグアンドドロップする



- 3 【編集画面】のツールバーの【文字】アイコンをクリックする



4 [編集トラック] でクリックする



画面の上にカーソルが表示され、文字が入力できます。

5 文字を入力する



6 【編集画面】のツールバーの【選択】アイコンをクリックする



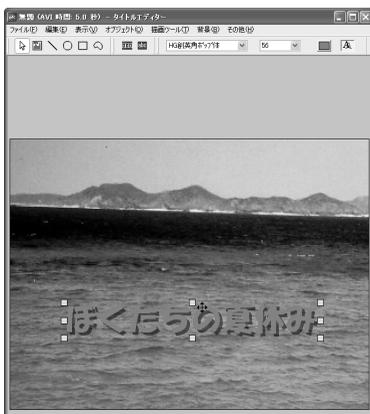
入力した文字が選択されます。



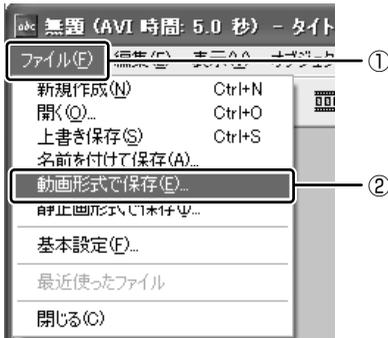
7 【編集画面】のツールバーの【文字フォント】【文字サイズ】【文字色】でフォント、サイズ、色を選択する

8 ポインタが  の状態でドラッグアンドドロップする

ドロップした位置に文字が配置されます。

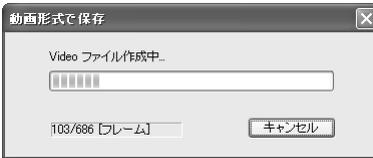


9 [編集画面] のメニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [動画形式で保存] をクリックする②

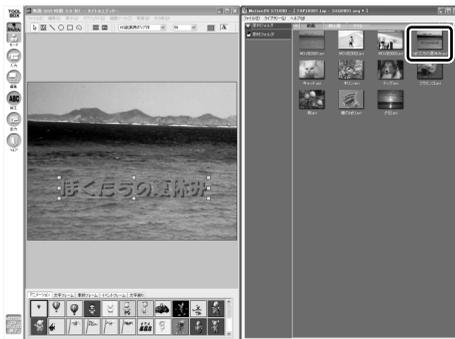


ビデオクリップとして使用するので、
[動画形式で保存] を選択します。

10 ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックする
ファイル作成中の画面が表示されます。



ファイルの作成が終わると、作成したビデオクリップが [ライブラリ] の [動画] タブに新しいビデオクリップとして表示されます。



2 複数のビデオクリップをつなぎ合わせる

いくつかのビデオクリップをつなぎ合わせて1つの映像データに編集します。

1 [TOOL BOX] の [編集] ボタン () をクリックする

「無題への変更を保存しますか?」という画面が表示された場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。

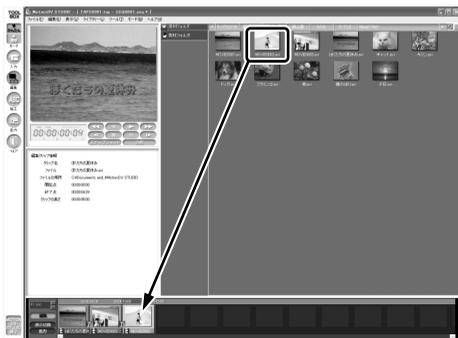
ワークエリアが [コントロール画面]、[ライブラリ]、[編集トラック画面] に分かれます。



2 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [新規作成] をクリックする②



3 [ライブラリ] の [動画] タブからつなぎ合わせたいビデオクリップのアイコンを [編集トラック画面] にドラッグアンドドロップする



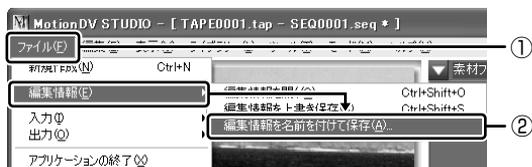
[編集トラック画面] にドロップされたビデオクリップは1つの映像データになります。

[再生] ボタン (▶) をクリックすると、編集した映像データを [コントロール画面] に再生します。[クリップを戻す] ボタン (◀◀) や [クリップを送る] ボタン (▶▶) で再生を開始するビデオクリップを変更できます。

編集した映像データを保存する

編集した映像データを保存したり、途中でやめるときは、次の手順で保存します。

- 1 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [編集情報] → [編集情報を名前を付けて保存] をクリックする②

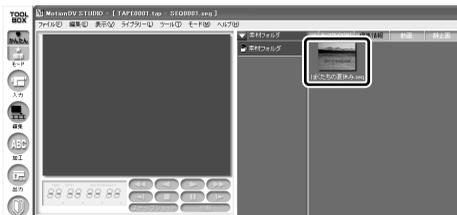


- 2 ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックする

保存先は「MotionDV STUDIO」でビデオクリップを保存しているフォルダを指定してください。

編集を再開する

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動し、[TOOL BOX]の[編集]ボタン()をクリックする
- 2 [ライブラリ]の[編集情報]タブでビデオクリップのアイコンをダブルクリックする



前回保存した映像データのビデオクリップが[編集トラック画面]に展開されます。

編集を続け、同じファイル名で保存するときはメニューバーの[ファイル]をクリックし、表示されたメニューから[編集情報] → [編集情報を上書き保存]をクリックします。

お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

「MotionDV STUDIO」にはこの他にもいろいろな編集ツールがあります。さらに詳しい使いかたについては、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーの[ヘルプ]をクリックし、表示されたメニューから[ヘルプ]をクリックする
ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

 参照 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 編集した映像データを DVD に書き込む

* DVD マルチドライブモデルのみ

編集した映像データを DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込むことができます。DVD-RAM へ書き込む場合は「DVD-MovieAlbum」、DVD-RW、DVD-R へ書き込む場合は「DVDfunSTUDIO」を使用し、それぞれ手順が異なります。

「DVD-MovieAlbum」、 「DVDfunSTUDIO」は、本製品にはインストールされていません。あらかじめインストールしてください。

参照 インストールについて

「本節 アプリケーションをインストールする」

お願い 編集した映像データを DVD に書き込む前に

編集した映像データを書き込む場合は、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照 DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R について

「1章 8-③ 使用できる DVD」

- ヘルプやオンラインマニュアル上に JPEG ファイルが扱える記述がありますが、実際には使用できません。
- 本製品に付属の「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用しながら書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」などドライブをロックするアプリケーションが常駐している場合は、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込みは行えません。「Drag'n Drop CD + DVD」は必ず終了させてください。

参照 「Drag'n Drop CD + DVD」の終了

「本章 3-③ Drag'n Drop CD + DVD を終了する」

- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照▶ 省電力機能について「5章 バッテリ駆動」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバ
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション など
 ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PCカード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

1 DVD-RW、DVD-Rに書き込む(DVDfunSTUDIO)

DVD-RW、DVD-Rに書き込む場合は「DVDfunSTUDIO」を使用します。

お願い 「DVDfunSTUDIO」について

- 「DVDfunSTUDIO」では、8cm (3.15") のDVD-RW、DVD-R への書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RW、DVD-R に VR フォーマットでの書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、書き込みが可能なDVD-RW、DVD-R へ最大約3時間の映像データをDVDビデオフォーマットで記録できます。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-Audio や Video CD、miniDVD を作成することはできません。

- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RAMをサポートしていないため、DVD-RAMにDVD-Video形式のデータを書き込むことはできません。また、DVD-RAMをドライブにセットした状態で動作させると正しく処理ができない場合があります。
- 「DVDfunSTUDIO」で、DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行うには、ハードディスクに20GB以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- 書き込み済みのDVD-RWに書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD + DVD」などで消去する必要があります。消去方法については、「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプを確認してください。

▶ 参照 「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプ「本章 3-②-ヘルプの起動」

- 「DVDfunSTUDIO」で、DVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさによってはデータの変換に数時間かかることがあります。またディスクの書き込み終了までには、さらに数時間かかることがあります。

メモ

映像データを編集した後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

ここでは、映像データの編集から引き続き、DVD-RW、DVD-Rへ書き込む方法について説明します。

1 [TOOL BOX] の [出力] ボタンにポインタを合わせ①、[DVD-R/RWへ出力] ボタンをクリックする②



ワークエリアに [DVD-R/RW 出力] 画面が表示されます。



[DVD-R/RW 出力] 画面に表示されている映像データを書き込みます。書き込む映像データを変更する場合は、[ライブラリ] から映像データを選択し、[DVD-R/RW 出力] 画面にドラッグアンドドロップしてください。名前をつけて保存してある映像データは [ライブラリ] の [編集情報] タブから、デジタルビデオカメラから取り込んだビデオクリップは [動画] タブから選択できます。

2 [DVD-R/RW 出力] 画面で [出力] ボタン () をクリックする

出力用ファイルを作成します。映像データの大きさによっては、変換に数時間かかることがあります。出力用ファイルが作成できると「DVDfunSTUDIO」が起動します。

初めて起動したときは、[Panasonic DVDfunSTUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。



3 ドライブに DVD-RW または DVD-R をセットする

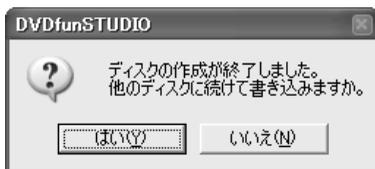
4 映像データが選択されていることを確認し、[書き込み] ボタン () をクリックする

「作成を開始します。」のメッセージ画面が表示されます。

5 [はい] ボタンをクリックする

映像データを書き込みます。書き込み中は進行状況が表示されます。映像データの大きさによっては、書き込み終了までに数時間かかることがあります。

書き込みが終了すると、メッセージが表示され、ドライブのディスクトレイが少し出てきます。



同じ映像データを他の DVD-RW、DVD-R にも続けて書き込む場合は、DVD-RW または DVD-R を入れ替えて、[はい] ボタンをクリックしてください。手順 5 の最初から繰り返し実行します。

書き込みを終了する場合は、DVD-RW または DVD-R を取り出してディスクトレイを押し戻してから、[いいえ] ボタンをクリックしてください。「DVDfunSTUDIO を終了します。」というメッセージが表示されます。

6 [はい] ボタンをクリックする

「変更を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

7 [いいえ] ボタンをクリックする

[MotionDV STUDIO] 画面が表示されます。

8 [TOOL BOX] の [MotionDV STUDIO 終了] ボタン () をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「DVDfunSTUDIO」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。



「DVDfunSTUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

お願い 作成したDVD-RW、DVD-Rについて

- 作成したDVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合もあります。
- 作成したDVD-RW、DVD-Rを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

2 DVD-RAMに書き込む(DVD-MovieAlbum)

DVD-RAMに書き込む場合は「DVD-MovieAlbum」を使用します。

お願い 「DVD-MovieAlbum」について

- 「DVD-MovieAlbum」でDVD-RAMへ書き込むには、あらかじめフォーマットツールでUDF2.0形式のフォーマットをしておく必要があります。
 - ▶ **参照** DVD-RAMのフォーマット「1章8-④ DVD-RAMを使うときは」
- 「DVD-MovieAlbum」でPAL形式の映像を保存したDVD-RAMには、PAL形式の映像しか追記できません。また、NTSC形式の映像を保存したDVD-RAMには、NTSC形式の映像しか追記できません。
- 「DVD-MovieAlbum」でPAL形式でDVD-RAMに保存された映像は、NTSC形式に変換できません。また、NTSC形式でDVD-RAMに保存された映像は、PAL形式に変換できません。
- DVD-RAMでVRフォーマットした場合、次の機能は使用できません。
 - マルチストーリー マルチアングル マルチアスペクト比 マルチランゲージ
 - パレンタルロック リージョンコード コピーガード

メモ

映像データを編集した後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

ここでは、映像データの編集から引き続き、DVD-RAMへ書き込む方法について説明します。

1 【TOOL BOX】の【出力】ボタンにポインタを合わせ①、【DVD-RAMへ出力】ボタンをクリックする②

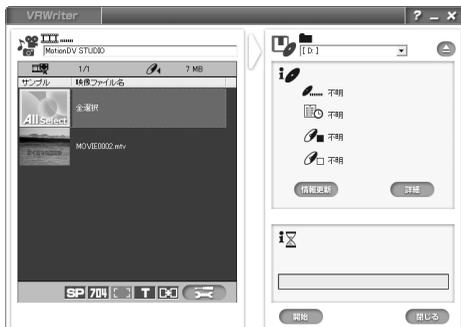


ワークエリアに【DVD-RAM出力】画面が表示されます。

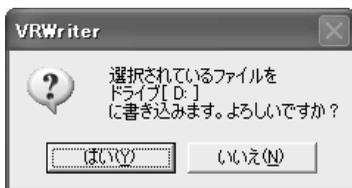


【DVD-RAM出力】画面に表示されている映像データを書き込みます。書き込む映像データを変更する場合は、【ライブラリ】から映像データを選択し、【DVD-RAM出力】画面にドラッグアンドドロップしてください。名前をつけて保存してある映像データは【ライブラリ】の【編集情報】タブから、デジタルビデオカメラから取り込んだビデオクリップは【動画】タブから選択できます。

- 2 [DVD-RAM出力] 画面で [出力] ボタン () をクリックする
出力用ファイルを作成します。出力用ファイルが作成できると「VRWriter」
が起動します。
「VRWriter」は、「DVD-MovieAlbum」のなかのライティングソフトウェア
です。DVD-RAM への書き込みにはこのソフトウェアを使用します。



- 3 ドライブにDVD-RAMをセットする
4 映像データを選択し、[開始] ボタン () をクリックする
確認のメッセージが表示されます。



- 5 [はい] ボタンをクリックする
映像データを書き込みます。
書き込み中は進行状況が表示され、書き込みが終了すると、メッセージが
表示されます。



- 6 [OK] ボタンをクリックする

7 [閉じる] ボタン () をクリックする

[MotionDV STUDIO] 画面が表示されます。

8 [TOOL BOX] の [MotionDV STUDIO 終了] ボタン () をクリックする

お願い 作成したDVD-RAMについて

- 作成したDVD-RAMは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合もあります。
- 作成したDVD-RAMを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

VRWriter のヘルプの起動方法

1 [VRWriter] を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

2 表示されたメニューから [VRWriterのマニュアル] をクリックする

ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

 「VRWriter (DVD-MovieAlbum)」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 112
 - 2 Bluetooth 機能を使う 128
 - 3 内蔵モデムについて 139

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

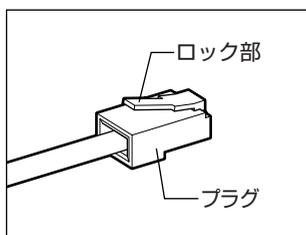
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときは、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

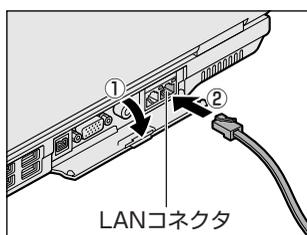
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときは、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかしめてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



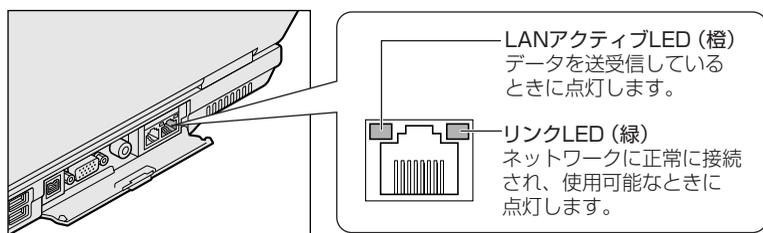
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品には IEEE802.11b に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能です。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネジメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11b に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Alliance の認定マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 参照 → WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録 3-6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

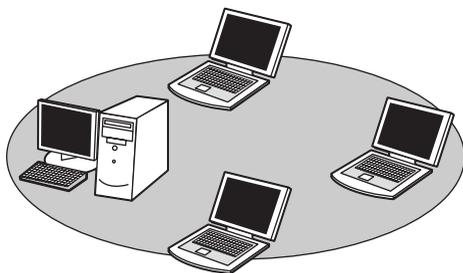
- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する
 参照 → 「本項-ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

 参照 → 「本項-インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

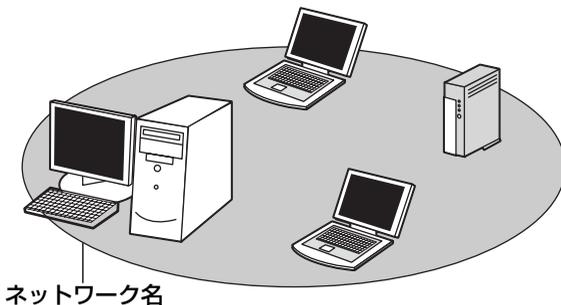
➡ 参照 ▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

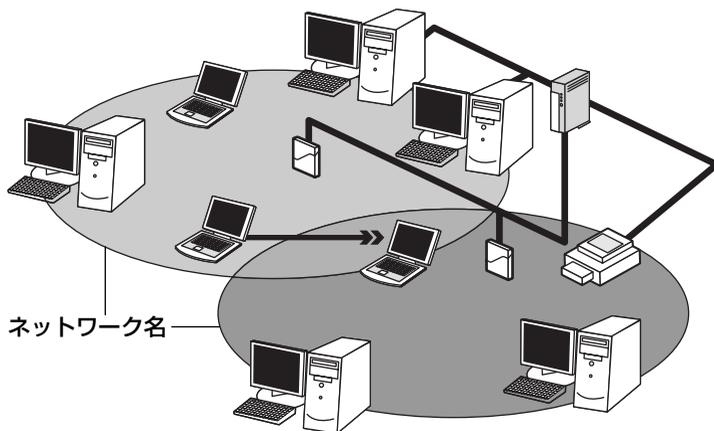
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

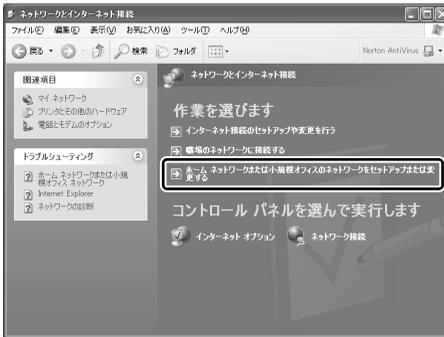
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

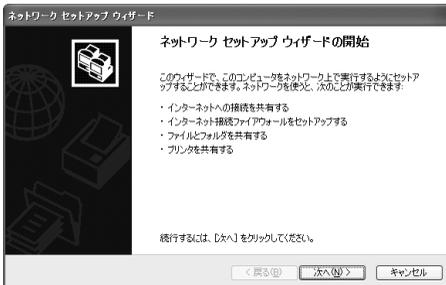
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

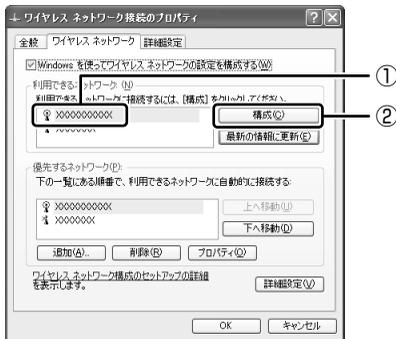
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128ビットと 64ビットの 2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

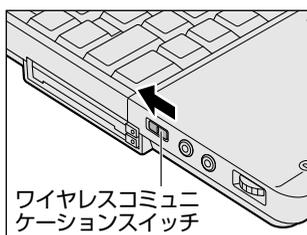
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

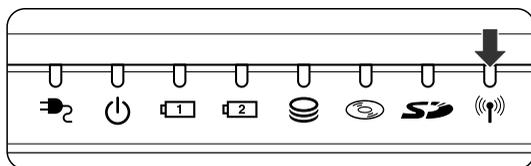
警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

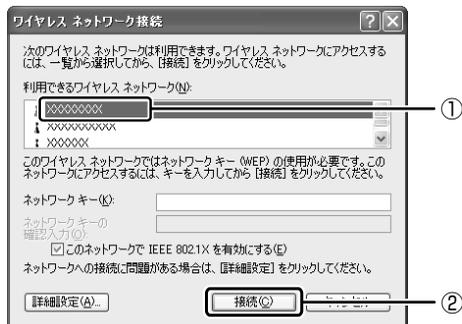
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 【ワイヤレスネットワーク接続】アイコン (無線LAN) を右クリックし、表示されたメニューから【利用できるワイヤレスネットワークの表示】をクリックする

【ワイヤレスネットワーク接続】画面が表示されます。

3 【利用できるワイヤレスネットワーク】の使いたいネットワークを選択し①、【接続】ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは【ネットワークキー】にネットワークキーを入力し、【接続】ボタンをクリックしてください。



接続できると、通知領域に「ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました」とメッセージが表示されます。

4 【スタート】 → 【マイコンピュータ】を開き、【その他】の【マイネットワーク】をクリックする

5 【ネットワークタスク】の【ワークグループのコンピュータを表示する】をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンをクリックすると【ワイヤレスネットワーク接続の状態】画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」^{コンフィグフリー}を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【TOSHIBA ConfigFree】 → 【ConfigFree】 をクリックする**

通知領域にアイコン () が表示され、【ConfigFree (ネットワークドクター)】画面と「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降「ConfigFree」の説明画面が必要ない場合は、【次回から表示しない】をチェックし、【閉じる】ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetooth と同時使用する際の【注意】画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、【OK】ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 **通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックする**

メニューが表示されます。

【デバイス】の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、東芝製の無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶データプロジェクタ: TLP-T720J / TLP-T721J。2003年6月現在) との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

[ConfigFree] の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 Bluetooth 機能を使う

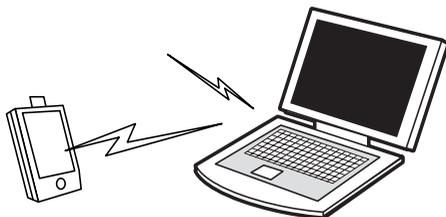
1 Bluetooth とは

ブルートゥース

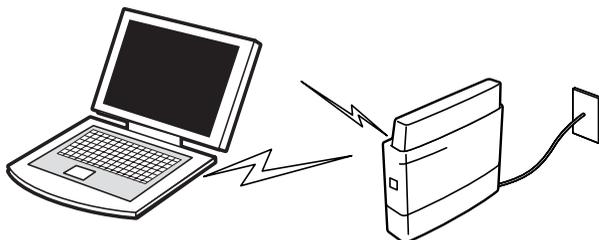
Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

● PDA と…

(使用例)



● Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

お願い

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 mの範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定のBluetooth対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth対応機器には、それぞれ固有のIDが割り振られ、接続時にはIDの交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」のヘルプ『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を参照してください。



『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』の起動方法
「本節 ②-3-ヘルプの起動」

【 Bluetooth 標準規格 】

Bluetoothは様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーのBluetooth対応機器でスムーズに通信できるようにBluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーはBluetooth対応機器の発売にあたり、そのBluetooth対応機器がBluetooth標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIGによって認証されたBluetooth対応機器には、Bluetoothロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【 サポートしているプロファイル一覧 】

本製品でサポートしているBluetoothプロファイルは次のとおりです。

- **ダイヤルアップネットワークングプロファイル (DUN)**
ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- **FAX プロファイル (FAX)**
ファックスを転送するプロファイルです。
- **LANアクセスプロファイル (LAP)**
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- **シリアルポートプロファイル (SPP)**
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- **ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)**
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- **ハードウェアケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)**
印刷を行うプロファイルです。
- **ファイル転送プロファイル (FTP)**
ファイルを転送するプロファイルです。
- **オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)**
vCardなどのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- **ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)**
Bluetoothの環境設定を変更するプロファイルです。
- **サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)**
SDPを制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- **サービスディスカバリープロトコル (SDP)**
サービスを探すプロトコルです。

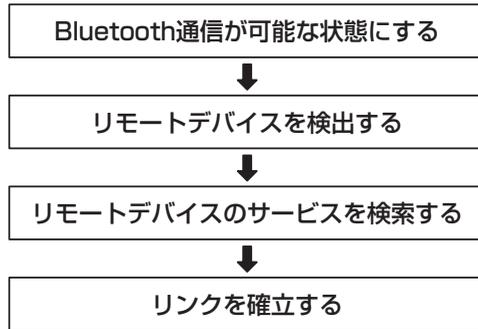
Bluetoothを利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

2 Bluetooth機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

- Bluetooth 設定
- Bluetooth Manager
- Bluetooth Information Exchanger
- Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)
- Bluetooth Local COM

これらの中心となるのは、「Bluetooth 設定」と「Bluetooth Manager」です。ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



1 Bluetooth通信が可能な状態にする

お願い

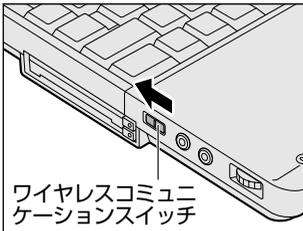
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

Bluetooth 機能の起動方法

- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [詳細設定] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン（）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。

初めて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ログテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、[続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



[Bluetooth Manager] アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetoothの電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[パワー ON] を選択して電源を入れてください。

デバイス名の設定

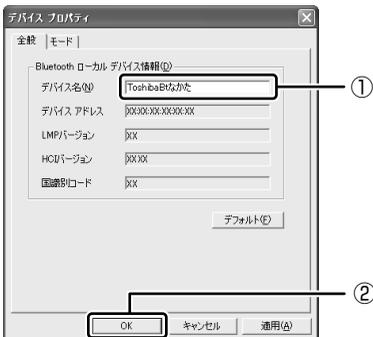
自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

- 3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは、名前を「ToshibaBtなかた」と入力しています。

デバイス名が設定されます。

Bluetooth 設定の起動

「Bluetooth 設定」は、他の Bluetooth 対応機器との通信を管理するユーティリティです。

1 Bluetooth 通信が可能な状態にする

2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth 設定」が起動します。

初めて起動するとき、または、通信を行うことができる他の Bluetooth 対応機器が登録されていないときは、[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

 **参照** [新しい接続の追加ウィザード] 画面
「本項 2 リモートデバイスを登録する」

2 リモートデバイスを登録する

「Bluetooth 設定」に、通信を行いたい Bluetooth 対応機器を登録します。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。「Bluetooth 設定」の「新しい接続の追加ウィザード」で、新しい接続の検出を行うと、その時点で通信可能なリモートデバイスがわかります。また、そのリモートデバイスが、どのようなサービス (Bluetooth での通信の種類) を実行できるのかを調べます。

1 「Bluetooth 設定」を起動する

2 [新しい接続] ボタン () をクリックする

[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



「Bluetooth 設定」画面

「新しい接続の追加ウィザード」が完了すると、[Bluetooth 設定] 画面が表示されます。

検出されたリモートデバイスの接続アイコンが、接続用アイコンウィンドウに表示されます。



リモートデバイスが登録され、通信を行う準備ができました。

3 Bluetooth通信を接続／切断する

「Bluetooth 設定」に登録されたリモートデバイスは、Bluetooth プロファイルの種類によって、自動的に接続／切断されるものと、手動で接続／切断する必要があるものがあります。

詳しくは、『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を確認してください。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ダイヤルアップネットワーキング プロファイル (DUN)	COM 自動接続機能設定を有効にしている場合は、関連するアプリケーションを使用するときに、必要に応じて自動的にリモートデバイスに接続／切断されます。
FAX プロファイル (FAX)	
LAN アクセスプロファイル (LAP)	
シリアルポートプロファイル (SPP)	
ヒューマンインタフェースデバイス プロファイル (HID)	マウスを動かすなどの操作により、自動的に接続されます。 ただし、パソコン側で一時的に切断した後の接続、リモートデバイスを他のパソコンと接続して、記憶されていたアドレスが更新された場合などは、手動で接続する必要があります。
ハードウェアケーブルリプレースメント プロファイル (HCRP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 アプリケーションから印刷を行うことで、自動的に印刷ができます。
ファイル転送プロファイル (FTP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどからファイル転送ができます。
オブジェクトプッシュ プロファイル (OPP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどから名刺交換ができます。

ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)、サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)、サービスディスカバリープロトコル (SDP) は、基本プロファイルです。

参照 → COM 自動接続機能設定

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

ここでは、手動による Bluetooth 接続／切断を行う方法を説明します。

接続方法

手動で Bluetooth 通信を接続するには、次の操作を行ってください。

- 1 接続するリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【接続】をクリックする②

接続が確立すると、選択したリモートデバイスのアイコンが接続状態に変わります。



切断方法

手動で Bluetooth 通信をやめるには、次の操作を行ってください。

- 1 接続しているリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【切断】をクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

2 [はい] ボタンをクリックする

接続が切断されると、選択したリモートデバイスのアイコンが切断状態に変わります。

ヘルプの起動

【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetoothの基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【Bluetooth Toshiba Utility User's Guide】

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

 「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年6月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

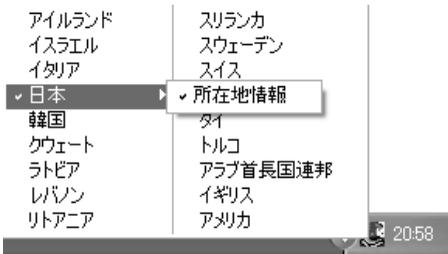
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークが付きます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

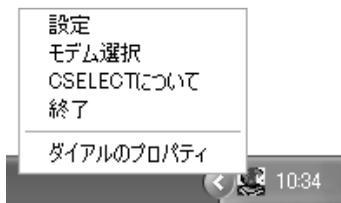
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

